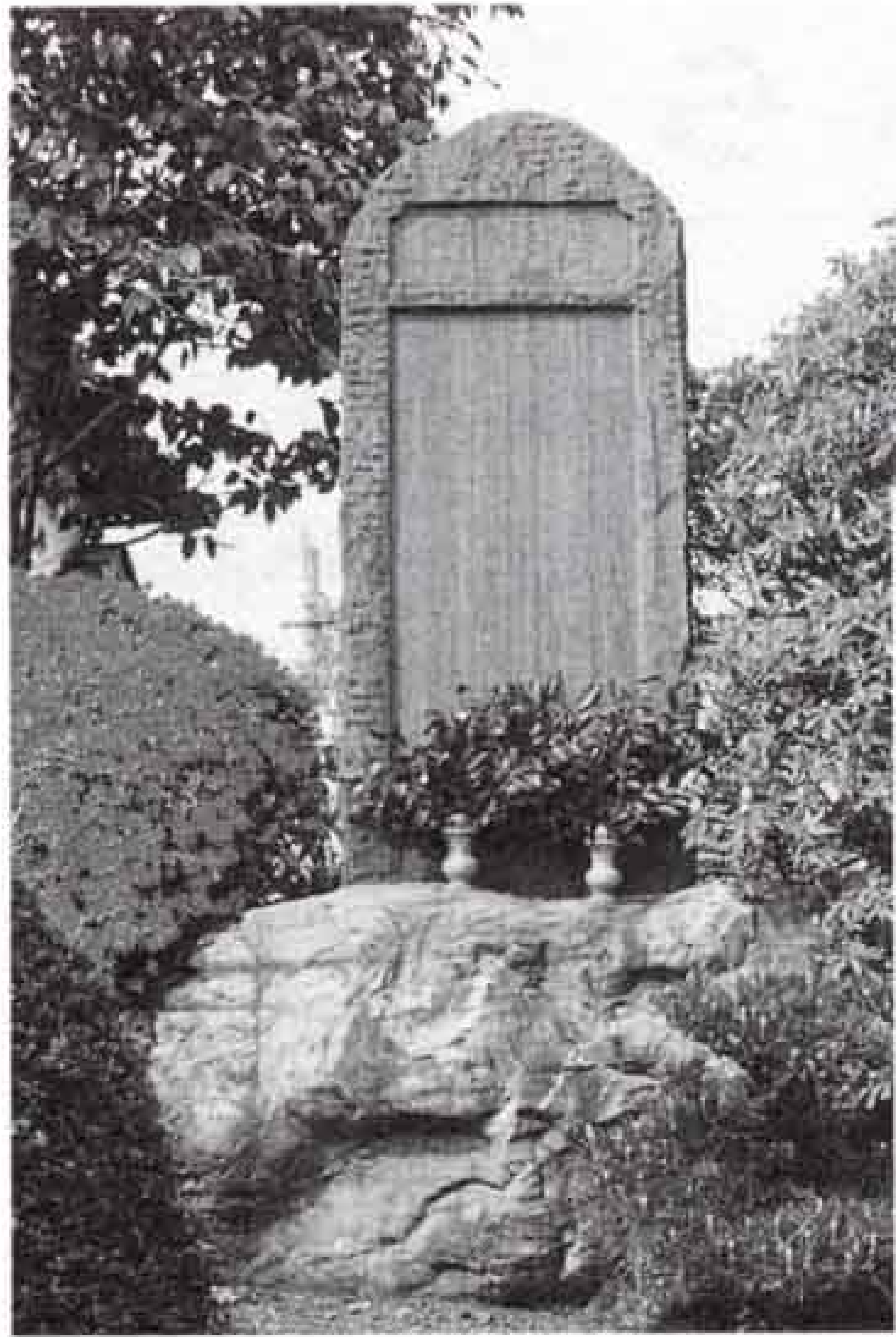


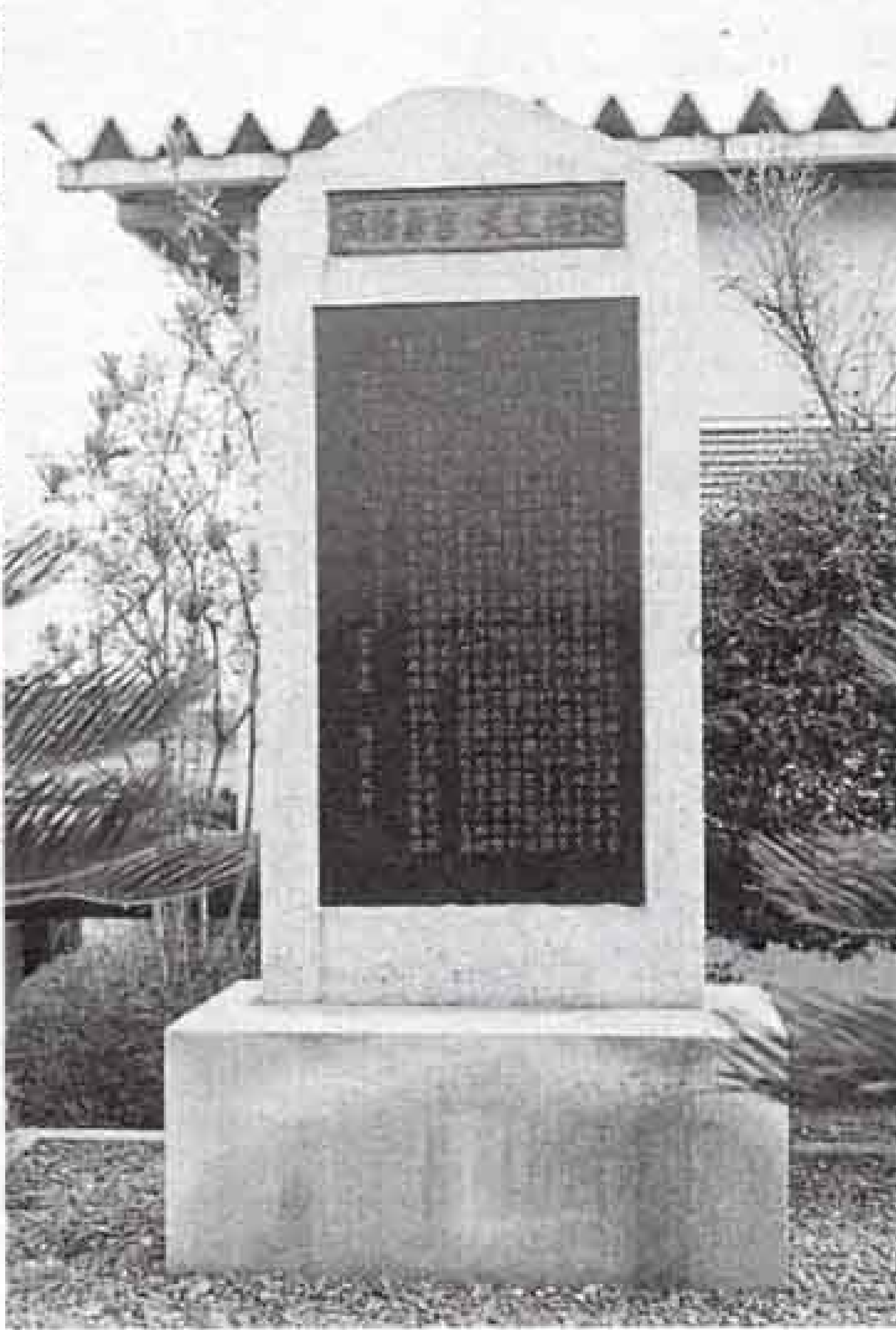
高橋勇吉の

天文堀

大野新田に「天文堀」と呼ばれる排水路がありました。天文堀がなかった江戸時代後期まで、大野新田の周辺はたびたび洪水に遭っていたそうです。
今回は、高橋勇吉がつくった天文堀を紹介します。



▲高橋勇吉の生家隣にある天文堀の碑



▲天文堀跡に建てられた碑

昔、沼川から浮島の一带の田は大雨が降ると湖のようになり、人々は大変困っていました。天保七年（一八三六年）、全国的に大飢饉のこの年、秋の大雨で大野・松田中の三新田の稲も全滅してしまいました。食べ物は底をつき、餓死する人も出たほどでした。

このとき、大野新田に住む高橋勇吉は、この土地を何とかしようと排水路をつくることを提案しました。しかし村人や役人は、できるはずがないと相手にしてくれません。それでも勇吉はあきらめず、新田を見つめては排水路のつくり方を考えていました。

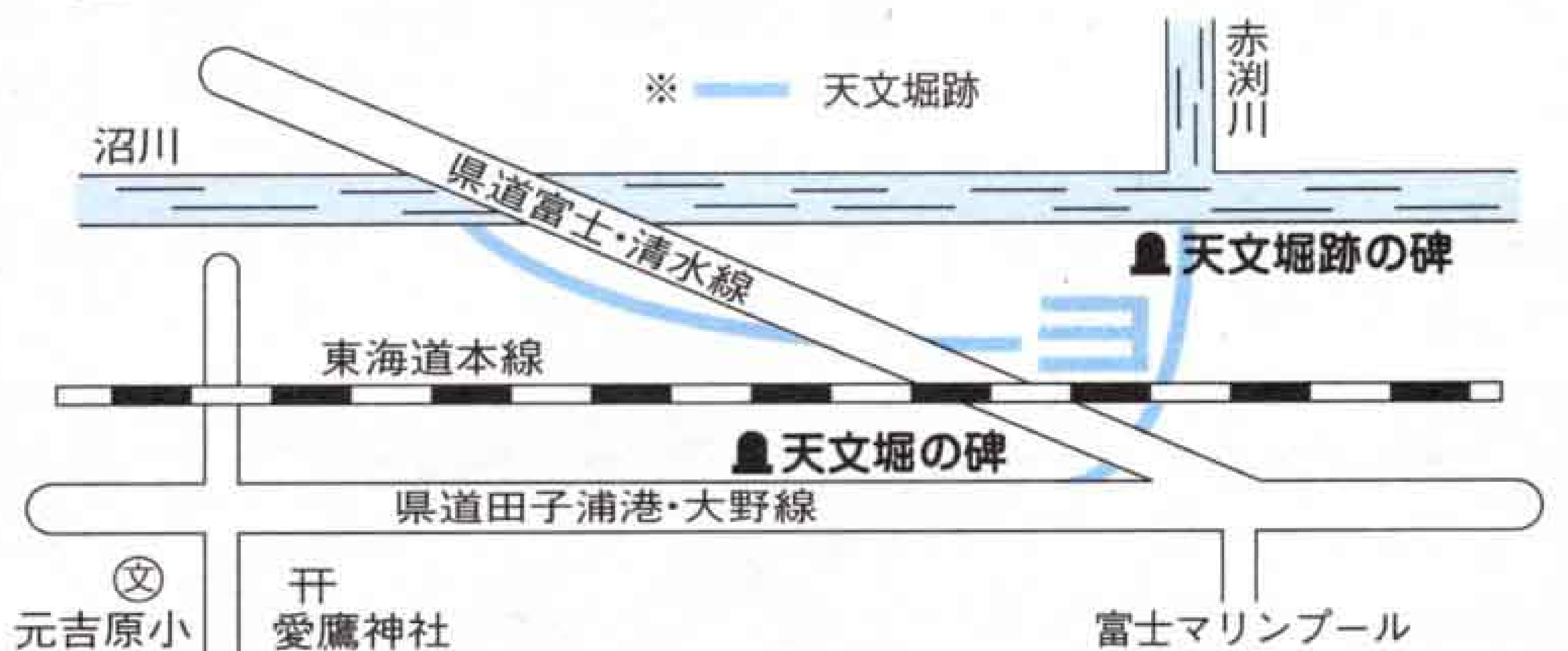
それから九年後、またも大飢饉が起きました。勇吉は直接江戸の奉行所へ工事の願いを出しましたが、村人が奉行所へ直接訴えることは禁止されていたので、取り押さえられ牢に入れられてしまいました。そして厳しい取り調べの末、ようやく工事の許可が出されました。

勇吉は、財産を全部なげうって排水路の資金に充て、十五年もかけて排水路をつくりました。完成した排水路は、勇吉が天文学にも大変詳しくあったことから「天文堀」と呼ばれるようになりました。

天文堀をつくった後、勇吉は豆腐屋をして生計を立てましたが、その生活はとても苦しかったようです。
よく小さいころ、母親から「天文堀をつくったことを自慢してはいけない。また、財産を失ったことを悔やんではいけない」と言われました。また、祖父に勇吉の手記を読み聞かせられたことも覚えています。
そのころ農家では、天文堀に川船を浮かべて稲を運んでいました。水がきれいの子供たちはよく天文堀で釣りをしました。ナマズやウナギなどがよく釣れ、シジミやトンボ、蛍もたくさんいました。その天文堀も、戦後になって土地改良や道路整備に伴いなくなりましたが…。



高橋勇吉の子孫
高橋 正美さん
(松新田)



こちら編集室

今日も朝からスタコラホイホイ。自転車でゆっくり15分、通勤の道のりを春堀が終わった川や収穫中のカンラン（キャベツ）の畑の中を、ペダルをこいで行く。土手のイタドリが日に日に伸びている。車輪の振動を感じてか、ドジョウが泥煙を立てて川底へ潜っていく。

人事異動により、新たな職場について1か月余り、新人職員も今では編集機器を自在に操り、原稿づくりに励んでいる。

親しみやすい文章と写真、イラストなどで市政情報を皆さんに提供していきます。

(トトロ風新サブボス)

人口 237,437人 (前月比-254)
男 118,198人 (-80)
女 119,239人 (-174)
世帯 78,185世帯 (+159) 4月1日現在

編集・発行 富士市総務部広報広聴課
〒417-8601 静岡県富士市永田町1-100 ☎51-0123

